



子どもたちにたくさんの経験を積んでもらいたい

大杉八重子さん

本年度、県児童福祉功労者に選ばれ、県知事感謝状が贈られた大杉八重子さん。北山児童センターの開館以来、37年にわたり子どもクラブのボランティア講師として、子どもたちに手芸やフラワーアレンジメントなどを教えています。大杉さんは受賞について「今まで支えてくれたセンター職員や地域の皆さんのおかげです。新しいアイデアが思い浮かばず悩んでいたときには、たくさんのアドバイスをくれるなど親身になってくれたのでここまで続けられました」と感謝の気持ちを話します。

大杉さんは、特殊な粘土を使って創作するクレイアートの資格を生かしたいとの思いから、北山児童センターに電話をかけたことがきっかけで講師を始めます。クレイアートのほかにも手芸やガーデニングなど自分の得意とすることを何でも教えていた大杉さんは、すぐに人気講師になります。しかし、大府市から名古屋市への引っ越しを機に、講師を辞めようと思っていました。「運転免許を持つていなかったので通うことが難しかったのです。けれど、地域の方が『送迎するよ』と言ってくれて、一時期は送迎してもらいながら活動を続けていました。結局は自分で運転免許を取得し、講師を続けることにしました」と周りの支えから、もう一度続ける決心をします。

そこから何十年と活動を続けた大杉さん。今までで一番印象に残っていることは「開館当初の講座に参加してくれた方と数十年ぶりに違う講座で再会したことです。当時の作品を今でも大切に飾っていると言われて本当に感動しました。作品をずっと大切にしてくれているのは、うれしいですね」と笑顔で話します。他にも、「教え子と再会したときに、講座をきっかけに芸術関係の道に進んでいるという話を聞き、今まで続けてきてよかったと思いました」と大杉さんとの縁が子どもたちに影響を与えました。

現在は月1回、子どもたちに大正琴を教えている大杉さん。今後について「いつか大正琴でオーケストラをしたい。四重奏で曲を弾きながら、オカリナや舞踊などをやっている他団体とコラボして、子どもたちの活躍の場を広げていきたいな」と目を輝かせます。子どもたちにたくさんさんの経験を積んでもらうため、体力が続く限り活動を続けていきたいと話します。いつまでも夢を持ち続け、前に進んでいく姿はすてきですね。



▲子どもクラブで大正琴を教えている様子

cover

雨上がりに農業用のため池である「神様池」(宮内町)のせせらぎ水路で遊ぶ稲葉葵くん。レインボーの傘を片手に、アメンボを探していました。今年の梅雨入りは例年より早く、湿度が気になる毎日が続いていますね。梅雨が明けるともう夏。暑い夏はもうすぐそこ!?

